

運動好き・体育好きでバランスの取れた体力・運動能力を備える児童生徒の育成

石川県教育委員会

取組時の課題と目的

Plan

1 取組時の課題

本県の児童生徒の体力・運動能力において低下の傾向が顕著に表れた平成18年度から、石川県教育委員会では体力の向上及び運動習慣の定着を目指し、「いしかわっ子体力アップ推進事業」に取り組んでいる。また、平成23年度からは国の事業を活用し、地域の大学や専門機関と連携して、子供たちの体力の向上に向けた実践研究を継続的に実施している。

近年では、体力合計点や総合評価で年々上昇の傾向が見られる。その一方で、校種・性別を問わず、握力やボール投げといった特定の種目において低下の傾向が継続していることや、体育（保健体育）の授業が楽しいと回答する児童生徒の割合が全国平均と比較して低いことなどが課題となっている。

2 取組の目的

- ①児童生徒への運動習慣の定着を図るとともに、運動好き・体育好きな子供たちを育成する。
- ②地域の外部人材を活用しながら、バランスの取れた体力・運動能力を本県の児童生徒が身に付けられるようにする。

取組の内容

Do

1 いしかわっ子体力アップ推進事業

(1) 体力アップ1校1プラン

県内の小中学生と高校生を対象として独自に行っている^{しっかい} 悉皆調査（「児童生徒の体力・運動能力調査」）や全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から明らかになった課題を解決するために、各校がプランを設計し、学校全体で取組を実践している。また年度末には、各校が取組の成果や課題を報告書としてまとめ、次年度の取組につなげていくなど、体力の向上のためのマネジメントサイクルが確立されている。



(2) いしかわっ子体力アップ研究協議会

毎年2月に、県内の全公立学校の体育担当が参加する研究協議会を行っている。前半の全体会では、体力・運動能力調査報告書を全参加者に配付し、分析結果や特徴的な傾向に関する解説及び大学教授などの講演会を行う。後半の分科会では、体力アップ1校1プランの実践についての発表や質疑応答などを校種ごとに行う。

(3) スポチャレいしかわ

「40m」（リレー）、「8の字」（8の字跳び）、「シャトルボール」（キャッチボール）、「長なわ」（みんなでジャンプ）の4種目を小学校の学級単位で実施し、その記録をインターネット上に登録すると、リアルタイムに順位が表示されるシステムとなっている。平成29年度には、209校（県内の私立・国立を含む全小学校の99.5%）、2016学級（同88.8%）の児童が参加するなど、年々参加率が上昇している。

また、秋には動画を募集してHP上に掲載したり、年度末には上位の学級を表彰したりするなど、更なる意欲を喚起するための取組も行っている。



2 地域の大学や専門機関との連携

県内の体力向上モデル校（小学校4校）に大学教授や専門機関の指導員を派遣し、専門的な知見をもとに、児童に直接の指導を行っている。内容は、低学年を対象にしたコーディネーショントレーニングや運動遊び、高学年を対象にした「投」や「跳」の能力を高める運動など、モデル校のニーズに応える形で設定している。大学教授には数名の学生も帯同し、児童の習得状況や興味・関心に応じて個別にきめ細かな指導を行うことができています。



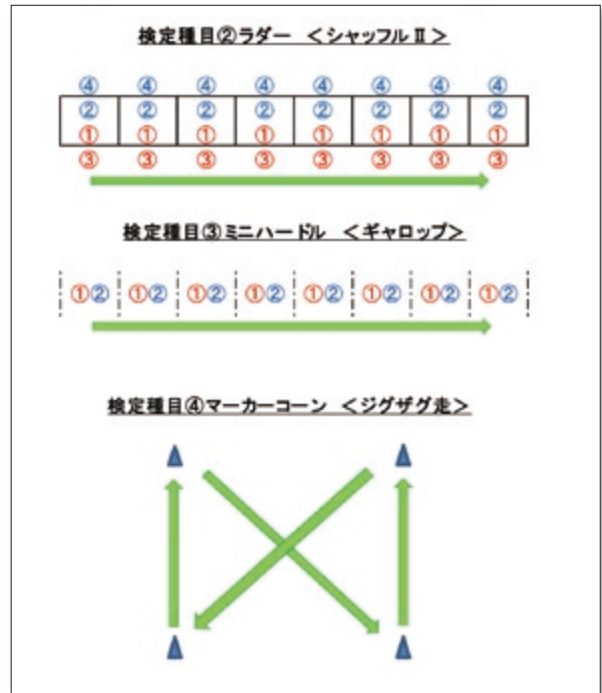
また過去には、取組の成果物として「ジャンプスロー体操」や「体幹・倒立リズム体操」といった握力や投力などの向上を目指すリズム運動を収録したDVDを作成して県内の全小学校に配付しており、現在も多くの学校で活用されている。



→ 工夫したこと

様々な運動やスポーツの基礎となる動きである「走」に焦点を当て、金沢星稜大学の教授に監修していただき、平成29年度より「いしかわ版スプリント検定」の作成に取り組んでいる。

種目にはラダーやミニハードルがあり、小学生を対象として、「速く」「正確に」を目標に誰もが楽しく取り組める検定を目指し、現在、複数のモデル校で実践しながら精度を高めているところである。



取組成果の評価



約80,000人を対象とする本県の独自調査における体力合計点や総合評価の推移を見ると、本県の児童生徒の体力・運動能力は上昇の傾向が継続している。また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査においても、体力合計点で全国上位を維持することができている。中でも平成29年度は、中学校女子のボール投げで改善の傾向が見られるなど、大変良好な結果であった。いしかわっ子体力アップ推進事業を始めとする様々な取組がしっかり定着しており、その成果が結果となって表れていると考える。

項目	区分	小学校			中学校			高等学校				
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
体格	身長	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	体重	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	BMI	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	BMI増	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲	▲	▲	▲
体力・運動能力	握力	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	上肢筋力	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	下肢筋力	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	反復横切り	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	持久走	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	20mシャトルラン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	50m走	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	200m走	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	400m走	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	800m走	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1500m走	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
合計	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
標準	2	1	2	0	1	3	3	0	3	0	12	

平成29年度と過去10年間の平均との比較(女子)

今後の課題



本県の独自調査では「体育の授業が楽しい」と感じる児童生徒の割合がわずかに増加しているが、全国体力・運動能力、運動習慣等調査ではまだまだ全国平均を下回る状況にある。体育の授業の充実において外部人材をどのように活用するか、また、スプリント検定を始め、運動が苦手な児童や意欲的でない児童が楽しく体を動かすのに効果的な手立てなどについて検討していく。